

入試情報

入 試 日	願 書 提 出	合 格 発 表	内 申 点 計 算 方 法
<p>■学力検査: 3/3(木)</p> <p>■面接など: 3/4(金)</p>	1/20(水) ~25(月)	3/16(水)	$\left. \begin{array}{l} 1年生の学年末 \times 2 \\ 2年生の学年末 \times 2 \\ 3年生の学年末 \times 3 \end{array} \right\} 90+90+135 = 315 \text{点満点}$ <p>(各学年5段階×9教科)</p>

教育のプロ
トライさん



傾向

合否判定における**内申点の割合が高い**のが北海道の入試の特徴(内申点315点満点に対し、学力試験は各60点で合計300点満点)。

学力試験については、2012年~13年にかけて易化したか、その後はやや難化傾向。

「学校裁量問題」の非実施校で行われる「**標準問題**」は**難易度が低く、取りこぼせない基礎問題が極めて多い**。

「学校裁量問題」の配点は国数英それぞれ20点程度。理社は全受験生が共通の問題で試験を行う。

「学校裁量問題」は導入当初よりやや易化し、難しい問題の中にも得点しやすい**基礎問題**が混ざって出題されるようになった。

各地域のトップクラス校の受験生は「**学校裁量問題**」で**いかに差をつけるか**、その他の受験生は**基礎問題**で**いかにミスしないか**が合否を分ける鍵となる。

科目別対策

英 語

大問4問構成。リスニングは一昨年に配点が12点から15点になっており、対策は必須。標準問題の基礎文法は、比較的易しいので、確実に得点しよう。長文読解では、図表を読み取るタイプの出題もある。文法をきちんと復習した上で、読解問題を繰り返し練習しておくことと良い。裁量問題は文章が長く読みにくいので、速読の練習が必要。自由英作文の出題もあるので、自分の言いたいことを英語で表現できるように練習すること。

数 学

大問5問構成。標準問題では、各単元の基礎問題が出題され、近年は易化傾向にあったが昨年やや難化。まずは基本的な問題を繰り返し練習し、志望校に応じて応用問題の演習を重ねよう。図形の証明問題や関数の問題は頻出単元で、配点は各4~5点程度。部分点を取れるように、解答を記述する練習をしておこう。裁量問題は思考力が鍵。「なぜそのように解くのか」を問題ごとに理解しながら演習を重ねよう。

国 語

大問4問構成。標準問題は漢字と実用文(手紙やスピーチ原稿)などから出題され、いずれも近年は易しめ。国語知識や文法を整理しておこう。長文は記述問題が多いのが特徴。きちんと読み解いて記述する練習が必須。必ず先生に添削してもらおう。古文は概要をつかむことが重要。内容理解に関する出題が多い。裁量問題は配点の半分以上が記述問題で、難度が高い。要点を制限字数以内にまとめる練習をしておこう。

理 科

大問5問構成。大問1は小問集合。各分野から基礎問題がバランスよく出題される。残りの大問は物理・化学・地学・生物分野から1問ずつ。実験器具の使い方や、実験結果を踏まえて考察を記述する問題が頻出。用語や結果を覚えているだけでは対応できない問題もある。結果のみを丸暗記するのではなく、過程や根拠を自分の言葉でノートにまとめるなどして、しっかりと理解しておくこと。グラフを書く問題も対策をしておこう。

社 会

大問4問構成。理科と同じく大問1は小問集合。一問一答形式の出題が多く、基本語句の暗記のみで得点できる箇所も多い。残りの大問は地理・歴史・公民分野から1問ずつ。地理は表やグラフなどの資料を読み取る問題が頻出。北方領土に関する問題も出題されやすい。歴史は時代の並べ替えが頻出なので、重要事項は時代背景までおさえておくこと。公民は基本的な内容を問われることが多い。語句の意味を正しく暗記すること。